高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区
阪南町中一丁目
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集発行人　稲谷勝弘

各種参考書・自習書
学生の店
おおさきや
地下鉄昭和町駅南出入口前角

期待される新入生の活躍

学校長　新入生等に与う

あたらしく入学せられた三五〇名の諸君、おめでとう。

本年はこと数年来のきびしい入試の壁が諸君らの前につき立っていました。本校もその例にもれず、市内各学区の中でも、もっとも高い競争率でありました。それだけに入学のよろこびも深いものがあり、おそらく一生のうちで、諸君らのいちばん大きなよろこびの一つとなることでしょう。しかし諸君のこのよろこびの陰には、志むなしく苦杯をなめている人たちも多数いること、また御両親をはじめ小学校、中学校の先生方のあたたかい思いやり、御教のたまものであることなどに思いをいたし報恩と感謝のまことをもたなければなりません。諸君らは今日より阿倍高生としての生活の第一歩をふみ出されるわけであります。思いつくままに道しるべとして二、三のことを申し述べてみましょう。

先ず「学習に生活に自律的であるということ」です。中学の学習とその量と深さにおいて、はるかに増大しています。したがって中学では「並歩」でよかった学習も、高校三ケ年間のうちの一年生の学習は基礎陶冶の時期であり、この時期の学習の基礎がくずれるならば高校三ケ年は全く無意義に終ってしまいます。また生活一般においても自律的であるべきです。諸君らの高校生活三ケ年間の精神的成長は全く驚くばかり、たくましく著しいものがあります。したがって指導者としての父母および教師もその発達段階に応じて生活指導をします。ところが新入生諸君の中には中学時代の「稚心」がぬけ切れず、いつまでももたれかかる人があります。わたくしたちは、「獅子が子獅子を谷底につき落とす」諺のように、諸君らを速く高校生らしくするために、谷底につきおとす場合もあるかと思います。そのときは、そのどん底から自力でたちあがっていただきたいと思います。

つぎに近代社会はミサイルの時代に入り、刻々と社会状勢・環境が激変しつつあり、諸君らもやがてはは、その渦巻きにまき込まれ、弱れかけるときがあり、そこには多くの苦悩・煩悩がまちかまえております。しかし諸君らが苦しみが深ければ深いほど、新しい進歩と発展があることを確信していただきたいと思います。西洋の哲人デカルトは「われ思ふゆえにわれあり」と言いました。この態度をもって、日々に新しい心をもって進んでいただきたい。諸君らにふりかかる近代的苦悩と大のく高校生として叡智と思索をもって歩み出していただきたいと思います。思いつくまま感じたままを述べて、新入生によせることばといたします。

本校校長
赤間一夫先生

九月より再登場の沢池先生

昨年五月、肺結核の為一時教職を去られ府立羽曳野病院に入院中の沢池利三先生はその後の経過がよく、今年の六月退院され、九月より再び教壇に立たれる予定であると沢池先生より知らされた。

学習及び生活を自律的に

昨年から今年にかけて勤務評定問題が起り、府県によっては先生方の間に高校入試事務拒否も行なわれるなど、色々な諸問題が起り受験生にも何かにつけて動揺をもたらしたであろうが、去る三月十七日に府下公立高校の入試が一斉に行われた。本校も四六〇名余の志願者がつめかけ、狭き門を突破した新たな三五〇名（男子二一〇名　女子一四〇名）がさる八日晴れの入学式を迎え、新阿倍高生として恥ずかしくない生徒になられるであろう事を希望する。

春四月、校庭の樹々にも新たな芽生えが見られる。あらゆる自然の創造物は、快い春風に身を託し早春の息吹も高らかに謳歌しようとする。一方我々高校生にとっては「春」は新たな生活の出発を意味する。即ち、入試を経て新たに高校生となった新入生諸君は、今ここに高校生としては

論説

ち切れんばかりの希望と情熱を持って未知の生活に憧憬と不安の入混った気持で第一歩を踏み出す時であり、在校生諸君は更に一級上の階段を上る時だ。我々は各々の段階に応じてそれぞれの目的なり信条をもって今日から全く新しい気持で明日への道に一歩を進める……。云わば我々全員が各自の目標とする所へ向って力強く且つ慎重に出発点に勢揃いしたのである。

今日の状態だと云えよう。しかし高校生としての最終の目標或は、課題は同じものなのである。

さて、あらゆる意味で我々は明日への無限の可能性を含んだ存在だと云える。「青年」は春に先がけて崩え出る若芽に喩えられる。やがて各自が社会人としてそれぞれの道に進みそれぞれの職業につく時期だ。それが現在の我々だ。

世界は常に行動し、歴史は時の流れと歩を共にしている。今我々に与えられるべき「課題」は明日の世界中の人々が全て平和への希求を全う出来得るよう全力を尽すことだ。しかし単に口頭で美辞麗句を弄ぶのではなく、大切なことは真に実行する、行動するということである。其新聞に次のような文章がある。可用しよう。

『世界は激しく揺れている。日々の中に在っての我々がなすべきやせねばならぬ所のもの「青年の課題」を着々と更行していくことではないか。我々が見るのは単に彼岸ばかりでなく現実の足許も見なければならないのだ。

『青春は仕事も要求する。又、青春は悦びを必要とする。青春に教育を与えよう。悦びは自然にその後からやってくるのだろう』（ジイド）「青春に教育を与えよう！」さあ、我々は共に前途ある道程を前にして高らかな姿勢で臨もうではないか。

おしつけられるものではなく自らの手でしっかりとつかんでゆくべきものだ。我々は「現代という歴史の全面を大きな眼でみ且つその中に在っての我々がなすべきやせねばならぬ所のもの「青年の課題」を着々と更行していくことではないか。我々が見るのは単に彼岸ばかりでなく現実の足許も見なければならないのだ。

『青春は仕事も要求する。又、青春は悦びを必要とする。青春に教育を与えよう。悦びは自然にその後からやってくるのだろう』（ジイド）「青春に教育を与えよう！」さあ、我々は共に前途ある道程を前にして高らかな姿勢で臨もうではないか。

高らかな姿勢を

☆

三十三年度　決算報告行わる

各クラブの昭和三十三年度の会計決算状態はどうだったろうか。新しい年を迎えて、昭和三十三年度会計決算は、各クラブの会計と自治会の会計の熱心な力で出来た各クラブの三十二年度と三十三年度の比較を次に載せておいた。

運動クラブの支出額を三十二年度の支出額と比較してみると、特に左記の事がうかがわれる。

第一に、三十二年度にはわずかながらも支出していた山岳部が三十三年度には支出が〇である事。

第二に、ソフト部では三十二年度には三十二年度の半額に支出が減っている事。

第三に、男子、女子両バスケットの支出が、三十二年度にくらべてやや減少している事。

文化クラブの支出額についても、比較してみると、

第一に、弁論部の支出額が三十二年度の二倍となっている事。

第二に、煎茶部、弁論部に残金がある事。弁論部はナント支出額の三倍近く金高が残っている。

そこで、各クラブはクラブ費を十二分に活用し、各々のクラブ活動を一段と向上させ、充実させてもらいたいものだ。尚特別、文化クラブの支出額は三十二万五千六百七十円（予備費含む）、運動クラブの支出額は五十三万八千百七十五円（予備費、大会参加費含む）である。本部費は都合により掲載出来なかった。

追　報　就職内定者

昨年九月より大激戦を演じた就職試験も本校はこの二月末日には全員（一二三名）決定し、係りの先生方を喜ばせた。就職先は実業関係の六九名（男子一四名、女子五五名）が最高で、続いて金融関係三十名（男子三名、女子二七名）保険関係一六名（男子二名女子一四名）、官公衙八名（男子六名、女子二名）となっている。

白旺社　藤原紀代志④
小泉KK　滝谷庸子⑥
住友機械KK　佐野晧子①
日本電信電話公社　山下照代①

高校生活のあり方

多様な精神生活を

生活指導部長　竹内　徹

九年間の義務教育に終りをつげ大阪府下戦後最高の競争率であった高校入試も無事乗り越えた現在歓喜に満ちている一方高校生活とはどのようなものだろうか、と心配している生徒諸君のために、生活指導部長の竹内先生にお願いして高校生活のあり方を書いていただいた。一年生には何かにつけて参考になるだろう。

高校生活の中心はどこまでも学ぶことが本来の目的であるべきである。その意味において、高校一年は今後三カ年の基礎を築きあげる最も大切な基礎陶冶の時期である。地上十二階の鉄筋を建てるためには、驚くべきほど地下に鉄棒をうちこまねばならない。そしてこの鉄棒は無駄なものでなく十二階を支えていなくてはならない存在なのである。わたくしは本年三月に施行せられた大学入試問題を一見し、一年で学習しているような問題がいたるところに出題せられているのをみ、いよいよ高校一年の学習の地道な実践が必要なことを痛感しているものである。

さらに具体的に話をすすめるならば、「予習と復習」の問題である。一般論として論断するならば国語英語などは、すべてこの手びかえ学期に食傷をおこしてしまう人が多い。中学時代では、わりあいに進度もゆっくりしており、消化をするのに、そんなに苦痛ではないところが高校では、めまぐるしいほどに新しい教材が次から次へと並べられる。一例を国語にとれば、中学時代には、殆んど文語文にはふれておらなかった人たちに、文語文法、時代ごとに排列せられた古文の数々、あるいは当用漢字を超越した漢文等々、あわたたしく読解し、三年までにはとに角、源氏物語のような大作にまで足を踏み入らなければならない。

この意味において、高校一年は基礎陶冶の時期である。

高校一年生のうちには、すでに一学期に食傷をおこしてしまう人が多い。中学時代では、わりあいに進度もゆっくりしており、消化をするのに、そんなに苦痛ではないところが高校では、めまぐるしいほどに新しい教材が次から次へと並べられる。一例を国語にとれば、中学時代には、殆んど文語文にはふれておらなかった人たちに、文語文法、時代ごとに排列せられた古文の数々、あるいは当用漢字を超越した漢文等々、あわたたしく読解し、三年までにはとに角、源氏物語のような大作にまで足を踏み入らなければならない。

この意味において、高校一年は基礎陶冶の時期である。

習を必要とする学科である。とりわけ英語などは、単語の意味も辞書にあたらないで教室にのぞんだときはいざ知らず、学校においてもおなじであろう。数学などは、学校で学習したことを多くの問題にあたり、原理の理解を深めることがきわめて必要である。

つぎに学習と表裏一体の関係にあるクラブ活動がある。学習の平凡な、消極的な活動にたいし、クラブ活動は積極的な活動とし、生き生きとした、人間性を蘇がえらせる。体育に、文化に、若き青年の情熱と意気が、遺憾なく発揮せられる。自発的に集まり、学年を超越し、人間と人間の「たましいの触れ合い」の場とし、高校生活の楽しい思い出の場をつくる。ちょうど「砂漠のオアシス」にも匹敵するものであろう。

われわれは高校生となった以上この二つの生活を両立させなければならない。しかしこの二つの道の両立はやっかいである。この苦しみのうちにこそ、真の高校生としての誇りが存在する。思いつくままに述べて新入生を迎えようとのことばとする。（国語科教諭）

34年度　校務分掌決まる

昭和三十四年度の校務分掌案が三月二〇日教務より発表され正式に八日決定されたので紹介する。今回は人事が大幅に移動され目立った所では生活指導部長に竹内先生が、自治会顧問に杉野先生がなられた所。又、我新聞部の顧問に渡辺先生がなられた所等、昨年まであった統計課、営繕課がなくなった等

自治会顧問に杉野先生が

【学級担任】
（ゴデックは主任、課長）
三学年　陶山、和食、松隈、金沢
福井、佐々木、安永
二学年　荒木、中原、広瀬、高田
川村、渡辺
一学年　志賀、今井、稲谷、小林
松田、久岡、平塚

【学年係】
三学年　森田、行徳、弥園、多久和
政本
二学年　石川、沢田、富田、百田
（沢池）
一学年　佐野、野田、松崎、杉野

学校長　赤間一夫
教頭　伊予本一
事務長　鷲尾季武
教務部長　白川正
教務課　中原、松田、平塚
教務課　百田
進学課　森田、久岡、高田
庶務課　松隈、行徳、広瀬
放送課　石川、金沢
教養課　佐野、渡辺、多久和
新聞課　渡辺、政本
図書課　野田、和食、高田
佐々木、松田
生活指導部長　竹内徹
生徒課　今井、弥園
小林
清掃課　都留、沢田
保健衛生課　松崎、安永
北樋口
個人指導課　稲谷、金沢
沢田
職業指導課　福井、弥園、安
安永、佐々木、渡
辺、小林
自治会指導
顧問　川村、杉野
相談役（運動）今井、弥園
（文化）小林
（文化）高田（聖火）

【クラブ顧問】
特別クラブ　平塚、富田
新聞　渡辺、政本
図書　野田、和食、高田
佐々木、松田
放送　石川、金沢
文化クラブ（文化祭）多久和
ESS　平塚、野田　（クラブ発表）
演劇　川村、百田、櫓爪
映研　志賀、森田
音楽　多久和、佐々木
絵画　富田、中原
華道　和食、北樋口、安井
茶道　渡辺、行徳
写真　石川、都留、秋
社研　現在休部
書道　佐野、陶山
家庭クラブ　小林、佐々木
（集会）久岡
（厚生）石川
（風紀）行徳
（会計）百田

【クラブ活動】
生物　松崎、沢田、安井
能楽　小林、川村
ハーモニカ　中原、広瀬
文学　和食、久岡
洋舞　安永
歴研　白川
宗研　政本
煎茶　松隈、弥園
国際交通　福井、荒木
弁論　竹内
地理研　稲谷、秋
珠算　渡辺
運動クラブ
硬庭　富田、松崎、沢田
体操　都留、多久和
卓球　森田、百田、安井
男子排球　竹内、稲谷、志賀
女子排球　石川、北樋口、秋
柔道　弥園、平塚
水泳　今井、広瀬
ソフトボール　安井、久岡
男子籠球　松田、野田、白川
女子籠球　小林、佐々木、櫓爪
野球　荒木、高田、福井
陸上競技　今井、中原
サッカー　弥園、金沢、川村
山岳　佐野、陶山、渡辺
軟庭　和食、行徳、政本
剣道　今井
家庭クラブ　小林、佐々木
（敬称略）

大学合格者

三五三名を送り出して、先生方もホッとなさったのも束の間、まだ進学、就職と、大きな仕事が残っています。

進学の方は二月初旬から各大学の入試がはじまりました。

本校は、阪大現役三名、市大現役五名と、まずまずの成績をおさめておわりました。

後輩のみなさんはこれを参考に、よき道へ進まれますように。

（敬称略三月二十五日現在）

【大阪大学】
法学部　中谷一夫
医学部　斉藤千弓
文学部　柿原　清

【神戸大学】
教育学部　渡辺正雄
〃　野々上良甫

【大阪市立大学】
文学部(二)　小寺庸之
家政学部　藤峨山かほる
〃　藤原早苗
工学部　窪田　正
経済学部　吉田隆史

【神戸商科大学】
上村昭彦

【京都外国語大学】
拝志卓三

【北九州大学】
中国語　山下　猛

【大阪工科大学】
建築学部　山際健一
〃　小野　司

【大阪女子学園短期大学】
被服学部　熊井良枝

【大阪音楽大学】
器楽学部　朝山陽子

【社会事業短期大学】
産福学部　阿部　鞠
〃　中島是尋
社会学部
事業学部　谷垣美子

【大谷短期大学】
被服学部　長榎玲子
横沢郁子
落合和子
村田順子
瀬崎俊子

【法政大学】
文学部　原田守雄

【東京女子短期大学】
英文学部　諸富明子

【京都市立美術大学】
工芸　田中千世子

【神戸女子薬科大学】
田中照子

【京都薬科大学】
萩原　明

【多摩美術大学】
図案　猿山幸男
日本画　近藤　知

【松山商科大学】
経営学部　生越喜久雄

【立命館大学】
法学部　江口弘文
上田一男
南出　啓
経済学部　岡田博次
加藤益王
馬淵英朗
理工学部　武田　巌
平　博一
文学部　北岡宏成
工学部　武市有信

【大阪経済大学】
小西修一

【大阪商業大学】
商業学部　辰巳洋子

【同志社大学】
法学部　上下義政
岡本康男
貴田栄郎
真鍋　靖
小林敏一
経済学部　引地忠紀
村尾隆史
山本興二
美藤茂夫
浜田忠之
永長三郎
里中康志
立田紀夫
柿原　清

【関西学院大学】
経済学部　垣田昭太郎
太田勝博
上村昭彦
岡部裕三
田中康志
岡本　寛
有元宣也
垣田昭太郎
引地忠紀
松本義彦
永長三郎
永長三郎
三宅繁次
津田誉至雄
岡本康男
垣田昭太郎
太田勝博
渡部雄策
赤沢晃豊
三浦　競
文学部　根木一郎
佐伯幸昭
岡本　寛
藤井泰男
天野誠也
毛利　元
芝本晴子
有村佳子
関　勝裕
三好光夫
津田誉至雄
引地忠紀
垣田昭太郎
有元宣也
岡本　寛
野上　宏
経済学部　田中康志
瀬藤宗雄
川崎浩毅
商学部　清水義夫
可邑幹夫
真鍋　靖
桜田貴久
大川征人
泉谷定次郎
中島是尋
美並義朗
本持喜康
菊川　紀
久安計司
藤井泰男
本持喜康
経済学部　竹内弘長
黒川
大川征人
長沢義弘
商学部　小西修一
中川恒弘
竹内弘長
根木一郎
田崎卓司
文学部　森田　収

【関西大学】
法学部　前田輝夫
袖山稔明
荻堂正晴
赤崎暢子

【金沢美術大学】
英文学部　不室公子
家政学部　植野静子

【武庫川大学（四年制）】
家政学部　西海由喜子

【武庫川女子大学】
被服学部　白木滋子
英文学部　不室公子

【武庫川短期大学】
中川洋子
宇野良子

【大阪府立病院附属厚生学院】
被服学部　仲田美津子

【四天王寺女子短期大学】
藤井孝道

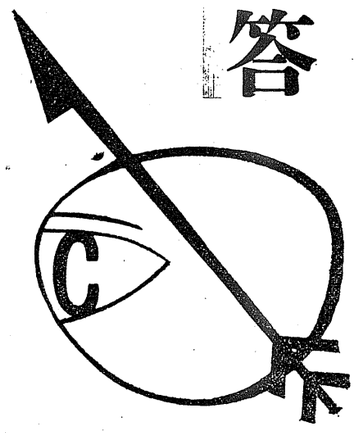
【島根農科大学】
英文学部　諸富明子

【東京女子短期大学】
建築学部　岩井　章

【京都工芸繊維大学】
工学部　岩井　章

【大阪府立大学】

答はいつも正確



・眼科専門医担当検眼
・最新設備検眼室
・有名メーカー直結特約店

当校推奨眼鏡店

正しいメガネをおつくりする

大阪視覚センター

千日デパート2階

当校の学生の方には特別割引致します

阿倍高アルバム

諸々のクラブ

オイ　うちの部へ入らネエーカ
―ウワー　助けてくれ―
各クラブ引き抜き合戦始まる。

針の穴

▼どうでした？春休みは？なに、遊びスギタ。いけませんゾ。早速先生に絞っていたときまショカ？▼オット、一年生諸君には無事御入学、おめでとう▼貴は年々向上シテオルとかイヤ．その割にエエのはおらんとか▼とにかく入ったからには、しっかりやって下さいよネ。なんデス。わかってマス。ああ、そうデスカ▼一方卒業生諸氏の方は〝ノーモア・ドーシテ〟の気構え充分ながら、阪大に現役、浪人とも名乗りを上げたのが出てマズマズの成績ですカナ▼かと思うと三年になりそこねたのが三名▼鍋底不景気と言われながら完全就職した方に比べるとイヤハヤ▼それはそうと合格発表日が今年も良い天気でなにより、運動部にとって▼例年にない引き抜き合戦でおましタナ。掲示板を見上げてニコッとするなり両方から〝○○部やけど入ってくれへんカ〟〝おい、コッチャの××部の方がエエゾ〟〝お前はダートトレ〟その間に新入生に逃げられたとか▼とにかく、合格で有頂天になっているスキに〝ウン〟と言わせてしまう腕はプロのスカウト並みデシタ▼それにもまして落っちゃったのが百余名〝アンタ泣いてんノネ〟と言った父兄が居たトカ▼バレー部の宣伝ビラ仲々しゃれてましタ〝テニスではもう遅い。今からは排球の時代だ〟とは。義宮のペタ・ハーフでも売りこむ気でいるんでしょうカネ▼この辺で今度のサー卒業式のサー思い出話を一席▼校長先生卒業式直前に低血圧全快？八〇円のタクシー？で門前へのりつけ。すかさず見付けた一年生女子、大声で〝アラ、校長先生ヤワ〟と言った途端全校の目は門前へ集まったカラたまりませン。校長先生の御顔はマッカッカ、いやレンガ色にナッチャッタ▼今年の卒業式は静かでした。去年のように式中にサンマの香りも漂っては来ませんでシタシ▼タダ、招待をうけていない府会議員が来て、〝ダダをこねたトカ▼そうそう卒業式の花ビンの花、三週間経た終業式に枯れたまま使うとハネ▼さてこれからが三年生には大勝負▼中庭の桜がきれいなのも今のうち、見とれている間に〝住高戦〟、体育祭、文化祭、雪が降ってアレヨコレヨですぐ一年▼一切の雑念を払ってしっかり〝灰色の青春も又楽し〟▼阿倍高の諸君、たのムぜ。

高校入試 難関を突破して

受験生に 影響の少なかった 勤評騒動

昨昭和三十四年四月八日いろんな難関を突破して見事に月桂冠をかち得た三五〇名の入学式が行われた。苦闘に満ちた受験生活から解放され希望に満ちた高校生活を迎え第一歩を踏み出した今日　苦しかった入試を振り返ろう。　今年は特に出身校の一覧表も載せた。

入試当日三月十七日は陰気な雨の降る日だったが受験生四百六十余名は元気に控室に集合、注意事項を聞いた後各教室に分れ運命の試験用紙と取り組んだ。付添人は受験生が教室に消えた頃大半は帰ったが尚心配な父兄が約五〇名控室に残った。受験生の話によると理科が比較的難しかった様だ。合格発表は二十日午前十時を期して張り出された。同時に当落、二つの明暗の光景が心憎いまでも描き出された。今年のクラブの入部勧誘はすさまじく校門から校舎入口まで各部の先輩が立ち並び声をからせているのが見られた。中でも、新聞部、放送部は勧誘、インタビューと忙しそうだった。同日午後二時より合格者の自治会入会金の納布等が行われ午後四時頃終了した。

【入試終了後】

次に入試当日、発表当日に受験生及び父兄に対して行ったインタビューを紹介する。

A君　時間が足らんので困った。理科はちょっと難しい。

Bさん　案外易すかった。

Cさん　始めから志望していました。考査中雨が降ったせいか寒かった。

父兄D　西宮から移転して来た所でなにもわからなかったけれど受けさせて見ました。昨日病院から退院したばかりなので十分な準備をしてない様でした。

父兄E　昔から女学校として伝統があったでしょ。又姉が来ておりますので、親ばかと言うのでしょうか。子供より親の方が心配で落着かないわ。ホホホ……

【合格発表後】

F君　うれしくて何もいえない。

Gさん　校舎は古すぎるけれど、第一希望の所に入いれたからうれしい。

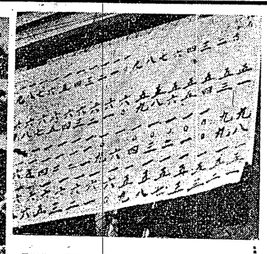
H君　胸がいっぱいで、何べんパスしても気持のよいもんやこれからは阿倍高の雰囲気に馴れるよう努力する。

Iさん　受験番号が六八〇（しっかりやれ）で激励されたような気持でした。

J君　自信がなかったので非常にうれしかった。中学生活とちがった新たな方針を立てクラブ活動に励みたい。

父兄K　発表日まで心配で落ちつきませんでした。女子が偉いそうだから今から心配です。

昔、女学校で伝統があるので志望しました。私の姉が行っていた時は学校　体が美しかったそうだが男女共学になってから汚れた様です。



【写真説明】
右上　ジンクス打破出来ず　今年も一番がない
左　オバチャン載ってマツカ。ここにも親馬鹿一人

受験生出身校

三月二〇日午前一〇時より高校入試合格発表が行われたので受験生の出身中学の本校での進学状況をここに紹介する。男子では新鋭阿倍中が住吉中に続き第二位になっており女子は依然他校を引き離し昭和中がトップ。住吉中、阿倍中が続いている。住吉中、三稜中、帝塚山、加賀屋、桜陽、成南、羽曳野は女子全員合格になっている。表の左は男子である。

××——××
××——××

中学校名	合格	不合格	中学校名	合格	不合格	中学校名	合格	不合格	中学校名	合格	不合格
松虫	7	6	鶴見橋	2	2	天下茶屋	7	1	文の里	12	4
学大天王	1	0	天下茶屋	5	2	松虫	5	2	三稜	8	0
阪南	22	2	今宮	2	6	学大平野	4	4	昭和	35	8
住吉	33	4	文の里	30	11	阪南	4	4	帝塚山	16	6
帝塚山	0	4	東住吉	0	1	帝塚山	1	0	桜陽	1	0
夕陽丘	3	3	昭和	13	10	夕陽丘	0	1	成南	1	1
住吉		4	阿倍野	13	4	住吉	24	0	加賀屋	1	2
摂南		3	玉出	30	3	摂南	2	1	鶴見		
我孫子		1	住吉	1	1	我孫子	3	0	他		
成南		5	木本	5	3	成南	4	0			
加賀屋		3	そ	13	1	加賀屋	4	1			
鶴見		4		1	1	鶴見	1	1			

合格オメデトウ感想は？
ナニ、うれしいデスカ？
新聞部の大活躍

第六回対住高戦 五月十日前後開く

第二回準備委員会開く

例年五月初旬に晴れわたった春空の下で、元気に力の及ぶ限り戦い両校の親善を一層増す、阿倍野住吉総合体育大会も今年でちょうど六回目を迎えた。去る一月二十八日に第六回阿倍野住吉総合体育大会準備委員会が結成されて以来はや二ケ月たっている現在、まだ二回の会合を持っただけであるが第一回準備委員会では、日時、競技種目、競技場など決議された。日時（五月十日前後）、競技種目（十種）は昨年とほぼ同一であるが、昨年同好会から見格クラブとなった本校の剣道部と、気候的には少し早やすぎる水泳部の出場は、まだ未定であったが、第二回委員会では、それら二競技を種目の中に加える事になった。又詳しい日時は学校側で決定される。競技場は両校い同一クラブ部長同志の相談のうえ決定される事になり、予算の面においては年主催側が主予算を持つ事になっており、三千四年度の対住高戦は、会場が本校であるために主予算は本校が受け持ち住吉高校が援助の形をとる。又予算額は決定されていないが、昨年住吉高校が費やしたよりも少し上まわると予想されている。以上が第一回、第二回準備委員会決議事項であるが、これまでの委員会ではまだ見通しのつかない点が多くあり、議会の進行が遅れ決議事項の数も少ないが、詳細な事項は四月の委員会で決定される予定で観光地としても有名。

○京都（二二〇、四万）よく知れているので省略する。

次に見ておくべき車窓風景を順番にあげよう。

大森貝塚→大船観音→大磯の山→富士の遠望→酒匂川→小田原の松林風景→丹那トンネル→由比あたりの海岸風景→富士の近望→清水港→三保の松原→静岡あたりの茶畑→藤沢の東海道の松並木→大井川→弁天島→蒲鉾場→浜松湖→名古屋→関ケ原→伊吹山→米原付近のセメント工場→松原越しの琵琶湖→瀬田の唐橋→比叡山の遠望→加茂川ETC。

× × ×

新一年担任紹介

昭和三十四年度の授業が始まった。新しく入学した一年生は心気一転、勉学に励んで行くことだと思うが、何分初めてであるし、学校のこと、その他にもっとくわしく知りたいことがあるだろう。学校については他欄で紹介されてあるから、ここでは、目の前真暗闇といっていい、担任教師の横顔といったものを紹介して、参考にしようと思う。顔は既知のことと思うから、文章により一面を描いて行く。ここに書いてあることがらが全てではないのだから、他は各人のこれからの接触によってそのイメージをふくらませていただきたい。では……。

一組　志賀　勉

英語科担当の先生。一見むっつりがすきなと催促がきます）を差二米程左側の戸口が男子用、くれ出すところ。授業料を差し出すときの先輩の悟しそうな顔。諸君はそんな真似をしてはイケマセン保健室の先生はベリベリ親切だから遠慮なく傍聴して下さい。

先輩の事務室の前に応接室、宿直室があるその隣りに放送部室がある。毎日昼食時にはここから全校生に雑音を流している。

会議室を少し逆戻りして南舎と北舎との通路（写真⑨）の中間にあるのが職員便所。この入口の前に中庭にぬける戸口があり、休憩茶部、書道部等が交代して放課後練習しているから一度のぞかれる。カラー・コンディショニングとかがなされている由、とに左右の隅には柔道の道場と体育教箱が設置されているから御覧見をどうぞ。

右に曲ると小使室と職員室。昼食時は小使室へお茶をもらいにいらっしゃい。職員室に入り先生に質問するのも大いに結構。だがあまりしょっちゅうの歳も減しいところだから衛生上からも長居しないこと。先生と多く接触するのはよいが、神聖な教室でせよ。

職員室の横が事務室。ここは授業料は（納付各月十日迄で、期限にもぐまれ、海水浴場の設備があるので、休養地にもなっている。

○小田原（一一、三万）東京の衛星都市を囲れた、地方中心都市商業がさかんで、みかんの集散地となり、箱根への入口として発展している。

○熱海（四、〇万）九州の別府とならぶ全国的な温泉、保養地）

○静岡（二九、五万）昔は駿府とも呼ばれ、古い城下町、宿場町製茶、木工、漆器等の工業がある東海地方の代表的文化都市。

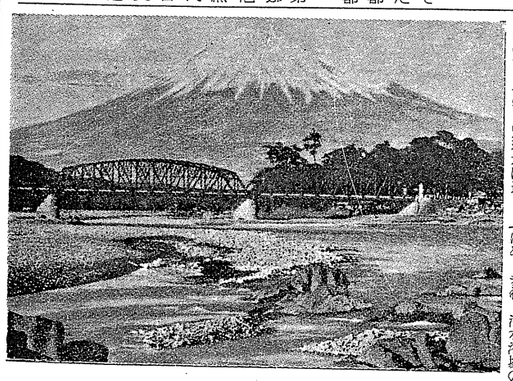
○浜松（二六、九万）城下町、宿場町、綿織物と楽器、オートバイの工業都市。市の西にある浜名湖はうなぎの養殖で名高く、近郊では大都市へ出す野菜栽培がさかん。

○岡崎（一五、六万）城下町、宿場町として発展。綿紡績、化学繊維工業の中心地。

○名古屋（一三三、七万）城下町から発展し、濃尾平野の中心、名古屋工業地帯の中心となった大都市で、繊維、機械、食品、陶器など各種の工業がさかんである。東京、大阪の中間にあって、中京の名を持つ商業中心地でもあり、わが国第四位の貿易港でもある。

○岐阜（一三五、九万）城下町、綿紡績、毛織物絹織物の中心地で、ちょうちん、和傘などの紙製品の産が多くて「長良川の鵜がい」

○岐阜（一三五、七万）、平塚（八、七万）大磯（一、六万）等は相模湾沿岸に並ぶ東京、横浜の衛星都市で、夏は涼しく、冬は温暖で、東京に近いので、住宅、別荘地に適し、通勤者が多く住んでいる。又風景



修学旅行の帰路、東海道（富士川べりより富士を臨む）

最終回 旅行地巡り

汽笛一声

東海道本線に沿って

江戸時代に幕府のあった江戸（東京）と都のあった京都を結ぶ東海道は、日本で一番大切な意味をもっていた。幕府は国内の交通を整えるため、全国の主な道路に沿って宿場を設け、馬やかご、宿屋の設備をそなえつけたが、宿場が置かれたところは、宿場町として住来の客でにぎわった。東海道には江戸と京都の間に五十三の宿場が置かれた。これからの宿場は「五十三次」として栄えた。

しかし明治以後、鉄道がつくと、宿場町は衰えていった。その中で新しい近代工業や産業の発達したところは、生まれかわった現代都市として栄えている。その主な都市をあげてみよう。

○横浜（一一四、六万）我国第五番目の大都市で、神戸とならぶ貿易港。江戸時代の末、神奈川港として開かれてから、それ迄の漁村が急に発展しはじめ、明治時代に入って東京の玄関港として東日本を代表する貿易港となった。又京浜工業地帯の一中心として、造船、機械、自動車、ビール、製粉精油など各種の工業が発達している。

○藤沢（一〇、九万）、茅が崎（五、七万）、平塚（八、七万）等は相模湾沿岸に並ぶ東京、横浜の衛星都市で、夏は涼しく、冬は温暖で、東京に近いので、住宅、別荘地に適し、通勤者が多く住んでいる。又風景

○小田原（一一、三万）東京の衛星都市を囲れた、地方中心都市商業がさかんで、みかんの集散地となり、箱根への入口として発展している。

○熱海（四、〇万）九州の別府とならぶ全国的な温泉、保養地）

○静岡（二九、五万）昔は駿府とも呼ばれ、古い城下町、宿場町製茶、木工、漆器等の工業がある東海地方の代表的文化都市。

○浜松（二六、九万）城下町、宿場町、綿織物と楽器、オートバイの工業都市。市の西にある浜名湖はうなぎの養殖で名高く、近郊では大都市へ出す野菜栽培がさかん。

○岡崎（一五、六万）城下町、宿場町として発展。綿紡績、化学繊維工業の中心地。

○名古屋（一三三、七万）城下町から発展し、濃尾平野の中心、名古屋工業地帯の中心となった大都市で、繊維、機械、食品、陶器など各種の工業がさかんである。東京、大阪の中間にあって、中京の名を持つ商業中心地でもあり、わが国第四位の貿易港でもある。

○岐阜（一三五、九万）城下町、綿紡績、毛織物絹織物の中心地で、ちょうちん、和傘などの紙製品の産が多くて「長良川の鵜がい」

諸君学出
御入
お目
度う。
諸君に阿高
早く倍
知って
いただく意味
意於て
新聞部

本校の前の道路（写真①）を通ると今度改修された美しい第二運動場（写真②）が見える。その前方には大きな体育館（写真③）が見える。ここで諸君は運動出来るのだ。幸福ですナー。ただしここを磨くのも諸君でソ

次に正門（写真④）を入ると若芽の美しい樹木が目に入り右手にしゃれたプール（写真⑤）が見える。カナヅチ連は覚悟すべし。第一運動場（写真⑥）の片隅にベンチ（写真⑦）があり休憩時間にはらっしゃい。職員室に入り先生にそこに男女仲良く話するのが見られ、又中には目なたぼっこする者もいるが、諸君もどうぞ。（但しいとこだから衛生上からも長居は芝生に入るべからず）毎週月曜日にはこの運動場で朝会が行なわれる。服装点検もこの時だから手ぬかりないように。

さて通用門（写真⑧）を入ると色々な黒板が目につく。自治会、学校、クラブ用の各掲示板である。自治会用掲示板は必ず行き帰りには見るように。重要な伝達はいつもここに配される由。クラブに入ったクラブ伝達用掲示板をよく見ないとあとでタコをつられる。黒板の下に自治会用投書箱が設置されているから御意見をどうぞ。

食時は使室へ、職員室へ入り先生に質問するのも大いに結構。だがあまりしょっちゅうの歳も減しいところだから衛生上からも長居しないこと。先生と多く接触するのはよいが、神聖な教室でせよ。

職員室の横が事務室。ここは授業料は（納付各月十日迄で、期限

必ず見ろョ一掲示板

持病は神経痛の校長サン
避けよ、食堂のラッシュアワー

一組　志賀　勉

二組　今井誠太郎

三組　稲谷　富夫

社会科、ことに地理専門の先生。説教の大名人でもある。この先生のオコゴトを聞いている生徒のうちそうな、身にしみて耳をかたむけ、ちょっと見ると少しばかり、インテリ先生を思わせるが、中々どうして、話しやすいママさんのような先生である。教壇に立つやいなや、飛びだすのが独特のザアマス言葉。何処となく、後光のさすような崇高な感じと、授業の運び方は定評あり、家庭科が担当である。

四組　小林七三子

ちょっと見るとインテリ先生を思わせるが、中々どうして、話しやすいママさんのような先生である。教壇に立つやいなや、飛びだすのが独特のザアマス言葉。何処となく、後光のさすような崇高な感じと、授業の運び方は定評あり、家庭科が担当である。

五組　松田藤兵衛

いかにも数学を教えるような先生。数学を教えるためにこの世においでになったような数学的なお顔をしておられる。どんな問題を持っていっても決して割り切れないで、余りを出すようなことをしない先生。時には一人で黒板に向かって授業されることもある。但し、諸君が懸命に拝聴しておれば、そういうことは十に一つもない。数学科担当。

六組　久岡　一美

男子徒諸君にとっては非常にこわい先生ではあるが、うわさによると、女子徒には非常にやさしい旨

七組　平塚淳次郎

「おーい平塚君」とでも呼びたくなるような若い若い希望の塊のような先生である。朗らかで元気は

八組　今井誠太郎

九組　稲谷　富夫

十組　久岡　一美

十一組　志賀　勉

十二組　今井誠太郎

十三組　稲谷　富夫

十四組　小林七三子

十五組　松田藤兵衛

十六組　久岡　一美

十七組　志賀　勉

十八組　今井誠太郎

十九組　稲谷　富夫

二十組　小林七三子

二十一組　松田藤兵衛

二十二組　久岡　一美

二十三組　志賀　勉

二十四組　今井誠太郎

二十五組　稲谷　富夫

二十六組　小林七三子

二十七組　松田藤兵衛

二十八組　久岡　一美

二十九組　志賀　勉

三十組　今井誠太郎

三十一組　稲谷　富夫

三十二組　小林七三子

三十三組　松田藤兵衛

三十四組　久岡　一美

三十五組　志賀　勉

三十六組　今井誠太郎

三十七組　稲谷　富夫

三十八組　小林七三子

三十九組　松田藤兵衛

四十組　久岡　一美

四十一組　志賀　勉

四十二組　今井誠太郎

四十三組　稲谷　富夫

四十四組　小林七三子

四十五組　松田藤兵衛

四十六組　久岡　一美

四十七組　志賀　勉

四十八組　今井誠太郎

四十九組　稲谷　富夫

五十組　小林七三子

五十一組　松田藤兵衛

五十二組　久岡　一美

五十三組　志賀　勉

五十四組　今井誠太郎

五十五組　稲谷　富夫

五十六組　小林七三子

五十七組　松田藤兵衛

五十八組　久岡　一美

五十九組　志賀　勉

六十組　今井誠太郎

六十一組　稲谷　富夫

六十二組　小林七三子

六十三組　松田藤兵衛

六十四組　久岡　一美

六十五組　志賀　勉

六十六組　今井誠太郎

六十七組　稲谷　富夫

六十八組　小林七三子

六十九組　松田藤兵衛

七十組　久岡　一美

七十一組　志賀　勉

七十二組　今井誠太郎

七十三組　稲谷　富夫

七十四組　小林七三子

七十五組　松田藤兵衛

七十六組　久岡　一美

七十七組　志賀　勉

七十八組　今井誠太郎

七十九組　稲谷　富夫

八十組　小林七三子

八十一組　松田藤兵衛

八十二組　久岡　一美

八十三組　志賀　勉

八十四組　今井誠太郎

八十五組　稲谷　富夫

八十六組　小林七三子

八十七組　松田藤兵衛

八十八組　久岡　一美

八十九組　志賀　勉

九十組　今井誠太郎

九十一組　稲谷　富夫

九十二組　小林七三子

九十三組　松田藤兵衛

九十四組　久岡　一美

九十五組　志賀　勉

九十六組　今井誠太郎

九十七組　稲谷　富夫

九十八組　小林七三子

九十九組　松田藤兵衛

百組　久岡　一美

百一組　志賀　勉

百二組　今井誠太郎

百三組　稲谷　富夫

百四組　小林七三子

百五組　松田藤兵衛

百六組　久岡　一美

百七組　志賀　勉

百八組　今井誠太郎

百九組　稲谷　富夫

百十組　小林七三子

百十一組　松田藤兵衛

百十二組　久岡　一美

百十三組　志賀　勉

百十四組　今井誠太郎

百十五組　稲谷　富夫

百十六組　小林七三子

百十七組　松田藤兵衛

百十八組　久岡　一美

百十九組　志賀　勉

百二十組　今井誠太郎

百二十一組　稲谷　富夫

百二十二組　小林七三子

百二十三組　松田藤兵衛

百二十四組　久岡　一美

百二十五組　志賀　勉

百二十六組　今井誠太郎

百二十七組　稲谷　富夫

百二十八組　小林七三子

百二十九組　松田藤兵衛

百三十組　久岡　一美

百三十一組　志賀　勉

百三十二組　今井誠太郎

百三十三組　稲谷　富夫

百三十四組　小林七三子

百三十五組　松田藤兵衛

百三十六組　久岡　一美

百三十七組　志賀　勉

百三十八組　今井誠太郎

百三十九組　稲谷　富夫

百四十組　小林七三子

百四十一組　松田藤兵衛

百四十二組　久岡　一美

百四十三組　志賀　勉

百四十四組　今井誠太郎

百四十五組　稲谷　富夫

百四十六組　小林七三子

百四十七組　松田藤兵衛

百四十八組　久岡　一美

百四十九組　志賀　勉

百五十組　今井誠太郎

百五十一組　稲谷　富夫

百五十二組　小林七三子

百五十三組　松田藤兵衛

百五十四組　久岡　一美

百五十五組　志賀　勉

百五十六組　今井誠太郎

百五十七組　稲谷　富夫

百五十八組　小林七三子

百五十九組　松田藤兵衛

百六十組　久岡　一美

百六十一組　志賀　勉

百六十二組　今井誠太郎

百六十三組　稲谷　富夫

百六十四組　小林七三子

百六十五組　松田藤兵衛

百六十六組　久岡　一美

百六十七組　志賀　勉

百六十八組　今井誠太郎

百六十九組　稲谷　富夫

百七十組　小林七三子

百七十一組　松田藤兵衛

百七十二組　久岡　一美

百七十三組　志賀　勉

百七十四組　今井誠太郎

百七十五組　稲谷　富夫

百七十六組　小林七三子

百七十七組　松田藤兵衛

百七十八組　久岡　一美

百七十九組　志賀　勉

百八十組　今井誠太郎

百八十一組　稲谷　富夫

百八十二組　小林七三子

百八十三組　松田藤兵衛

百八十四組　久岡　一美

百八十五組　志賀　勉

百八十六組　今井誠太郎

百八十七組　稲谷　富夫

百八十八組　小林七三子

百八十九組　松田藤兵衛

百九十組　久岡　一美

百九十一組　志賀　勉

百九十二組　今井誠太郎

百九十三組　稲谷　富夫

百九十四組　小林七三子

百九十五組　松田藤兵衛

百九十六組　久岡　一美

百九十七組　志賀　勉

百九十八組　今井誠太郎

百九十九組　稲谷　富夫

二百組　小林七三子

二百一組　松田藤兵衛

二百二組　久岡　一美

二百三組　志賀　勉

二百四組　今井誠太郎

二百五組　稲谷　富夫

二百六組　小林七三子

二百七組　松田藤兵衛

二百八組　久岡　一美

二百九組　志賀　勉

二百十組　今井誠太郎

二百十一組　稲谷　富夫

二百十二組　小林七三子

二百十三組　松田藤兵衛

二百十四組　久岡　一美

二百十五組　志賀　勉

二百十六組　今井誠太郎

二百十七組　稲谷　富夫

二百十八組　小林七三子

二百十九組　松田藤兵衛

二百二十組　久岡　一美

二百二十一組　志賀　勉

二百二十二組　今井誠太郎

二百二十三組　稲谷　富夫

二百二十四組　小林七三子

二百二十五組　松田藤兵衛

二百二十六組　久岡　一美

二百二十七組　志賀　勉

二百二十八組　今井誠太郎

二百二十九組　稲谷　富夫

二百三十組　小林七三子

二百三十一組　松田藤兵衛

二百三十二組　久岡　一美

二百三十三組　志賀　勉

二百三十四組　今井誠太郎

二百三十五組　稲谷　富夫

二百三十六組　小林七三子

二百三十七組　松田藤兵衛

二百三十八組　久岡　一美

二百三十九組　志賀　勉

二百四十組　今井誠太郎

二百四十一組　稲谷　富夫

二百四十二組　小林七三子

二百四十三組　松田藤兵衛

二百四十四組　久岡　一美

二百四十五組　志賀　勉

二百四十六組　今井誠太郎

二百四十七組　稲谷　富夫

二百四十八組　小林七三子

二百四十九組　松田藤兵衛

二百五十組　久岡　一美

二百五十一組　志賀　勉

二百五十二組　今井誠太郎

二百五十三組　稲谷　富夫

二百五十四組　小林七三子

二百五十五組　松田藤兵衛

二百五十六組　久岡　一美

二百五十七組　志賀　勉

二百五十八組　今井誠太郎

二百五十九組　稲谷　富夫

二百六十組　小林七三子

二百六十一組　松田藤兵衛

二百六十二組　久岡　一美

二百六十三組　志賀　勉

二百六十四組　今井誠太郎

二百六十五組　稲谷　富夫

二百六十六組　小林七三子

二百六十七組　松田藤兵衛

二百六十八組　久岡　一美

二百六十九組　志賀　勉

二百七十組　今井誠太郎

二百七十一組　稲谷　富夫

二百七十二組　小林七三子

二百七十三組　松田藤兵衛

二百七十四組　久岡　一美

二百七十五組　志賀　勉

二百七十六組　今井誠太郎

二百七十七組　稲谷　富夫

二百七十八組　小林七三子

二百七十九組　松田藤兵衛

二百八十組　久岡　一美

二百八十一組　志賀　勉

二百八十二組　今井誠太郎

二百八十三組　稲谷　富夫

二百八十四組　小林七三子

二百八十五組　松田藤兵衛

二百八十六組　久岡　一美

二百八十七組　志賀　勉

二百八十八組　今井誠太郎

二百八十九組　稲谷　富夫

二百九十組　小林七三子

二百九十一組　松田藤兵衛

二百九十二組　久岡　一美

二百九十三組　志賀　勉

二百九十四組　今井誠太郎

二百九十五組　稲谷　富夫

二百九十六組　小林七三子

二百九十七組　松田藤兵衛

二百九十八組　久岡　一美

二百九十九組　志賀　勉

三百組　今井誠太郎

三百一組　稲谷　富夫

三百二組　小林七三子

三百三組　松田藤兵衛

三百四組　久岡　一美

三百五組　志賀　勉

三百六組　今井誠太郎

三百七組　稲谷　富夫

三百八組　小林七三子

三百九組　松田藤兵衛

三百十組　久岡　一美

三百十一組　志賀　勉

三百十二組　今井誠太郎

三百十三組　稲谷　富夫

三百十四組　小林七三子

三百十五組　松田藤兵衛

三百十六組　久岡　一美

三百十七組　志賀　勉

三百十八組　今井誠太郎

三百十九組　稲谷　富夫

三百二十組　小林七三子

三百二十一組　松田藤兵衛

三百二十二組　久岡　一美

三百二十三組　志賀　勉

三百二十四組　今井誠太郎

三百二十五組　稲谷　富夫

三百二十六組　小林七三子

三百二十七組　松田藤兵衛

三百二十八組　久岡　一美

三百二十九組　志賀　勉

三百三十組　今井誠太郎

三百三十一組　稲谷　富夫

三百三十二組　小林七三子

三百三十三組　松田藤兵衛

三百三十四組　久岡　一美

三百三十五組　志賀　勉

三百三十六組　今井誠太郎

三百三十七組　稲谷　富夫

三百三十八組　小林七三子

三百三十九組　松田藤兵衛

三百四十組　久岡　一美

三百四十一組　志賀　勉

三百四十二組　今井誠太郎

三百四十三組　稲谷　富夫

三百四十四組　小林七三子

三百四十五組　松田藤兵衛

三百四十六組　久岡　一美

三百四十七組　志賀　勉

三百四十八組　今井誠太郎

三百四十九組　稲谷　富夫

三百五十組　小林七三子

三百五十一組　松田藤兵衛

三百五十二組　久岡　一美

三百五十三組　志賀　勉

三百五十四組　今井誠太郎

三百五十五組　稲谷　富夫

三百五十六組　小林七三子

三百五十七組　松田藤兵衛

三百五十八組　久岡　一美

三百五十九組　志賀　勉

三百六十組　今井誠太郎

三百六十一組　稲谷　富夫

三百六十二組　小林七三子

三百六十三組　松田藤兵衛

三百六十四組　久岡　一美

三百六十五組　志賀　勉

三百六十六組　今井誠太郎

三百六十七組　稲谷　富夫

三百六十八組　小林七三子

三百六十九組　松田藤兵衛

三百七十組　久岡　一美

三百七十一組　志賀　勉

三百七十二組　今井誠太郎

三百七十三組　稲谷　富夫

三百七十四組　小林七三子

三百七十五組　松田藤兵衛

三百七十六組　久岡　一美

三百七十七組　志賀　勉

三百七十八組　今井誠太郎

三百七十九組　稲谷　富夫

三百八十組　小林七三子

三百八十一組　松田藤兵衛

三百八十二組　久岡　一美

三百八十三組　志賀　勉

三百八十四組　今井誠太郎

三百八十五組　稲谷　富夫

三百八十六組　小林七三子

三百八十七組　松田藤兵衛

三百八十八組　久岡　一美

三百八十九組　志賀　勉

三百九十組　今井誠太郎

三百九十一組　稲谷　富夫

三百九十二組　小林七三子

三百九十三組　松田藤兵衛

三百九十四組　久岡　一美

三百九十五組　志賀　勉

三百九十六組　今井誠太郎

三百九十七組　稲谷　富夫

三百九十八組　小林七三子

三百九十九組　松田藤兵衛

四百組　久岡　一美

四百一組　志賀　勉

四百二組　今井誠太郎

四百三組　稲谷　富夫

四百四組　小林七三子

四百五組　松田藤兵衛

四百六組　久岡　一美

四百七組　志賀　勉

四百八組　今井誠太郎

四百九組　稲谷　富夫

四百十組　小林七三子

四百十一組　松田藤兵衛

四百十二組　久岡　一美

四百十三組　志賀　勉

四百十四組　今井誠太郎

四百十五組　稲谷　富夫

四百十六組　小林七三子

四百十七組　松田藤兵衛

四百十八組　久岡　一美

四百十九組　志賀　勉

四百二十組　今井誠太郎

四百二十一組　稲谷　富夫

四百二十二組　小林七三子

四百二十三組　松田藤兵衛

四百二十四組　久岡　一美

四百二十五組　志賀　勉

四百二十六組　今井誠太郎

四百二十七組　稲谷　富夫

四百二十八組　小林七三子

四百二十九組　松田藤兵衛

四百三十組　久岡　一美

四百三十一組　志賀　勉

四百三十二組　今井誠太郎

四百三十三組　稲谷　富夫

四百三十四組　小林七三子

四百三十五組　松田藤兵衛

四百三十六組　久岡　一美

四百三十七組　志賀　勉

四百三十八組　今井誠太郎

四百三十九組　稲谷　富夫

四百四十組　小林七三子

四百四十一組　松田藤兵衛

四百四十二組　久岡　一美

四百四十三組　志賀　勉

四百四十四組　今井誠太郎

四百四十五組　稲谷　富夫

四百四十六組　小林七三子

四百四十七組　松田藤兵衛

四百四十八組　久岡　一美

四百四十九組　志賀　勉

四百五十組　今井誠太郎

四百五十一組　稲谷　富夫

四百五十二組　小林七三子

四百五十三組　松田藤兵衛

四百五十四組　久岡　一美

四百五十五組　志賀　勉

四百五十六組　今井誠太郎

四百五十七組　稲谷　富夫

四百五十八組　小林七三子

四百五十九組　松田藤兵衛

四百六十組　久岡　一美

四百六十一組　志賀　勉

四百六十二組　今井誠太郎

四百六十三組　稲谷　富夫

四百六十四組　小林七三子

四百六十五組　松田藤兵衛

四百六十六組　久岡　一美

四百六十七組　志賀　勉

四百六十八組　今井誠太郎

四百六十九組　稲谷　富夫

四百七十組　小林七三子

四百七十一組　松田藤兵衛

四百七十二組　久岡　一美

四百七十三組　志賀　勉

四百七十四組　今井誠太郎

四百七十五組　稲谷　富夫

四百七十六組　小林七三子

四百七十七組　松田藤兵衛

四百七十八組　久岡　一美

四百七十九組　志賀　勉

四百八十組　今井誠太郎

四百八十一組　稲谷　富夫

四百八十二組　小林七三子

四百八十三組　松田藤兵衛

四百八十四組　久岡　一美

四百八十五組　志賀　勉

四百八十六組　今井誠太郎

四百八十七組　稲谷　富夫

四百八十八組　小林七三子

四百八十九組　松田藤兵衛

四百九十組　久岡　一美

四百九十一組　志賀　勉

四百九十二組　今井誠太郎

四百九十三組　稲谷　富夫

四百九十四組　小林七三子

四百九十五組　松田藤兵衛

四百九十六組　久岡　一美

四百九十七組　志賀　勉

四百九十八組　今井誠太郎

四百九十九組　稲谷　富夫

五百組　小林七三子

五百一組　松田藤兵衛

五百二組　久岡　一美

五百三組　志賀　勉

五百四組　今井誠太郎

五百五組　稲谷　富夫

五百六組　小林七三子

五百七組　松田藤兵衛

五百八組　久岡　一美

五百九組　志賀　勉

五百十組　今井誠太郎

五百十一組　稲谷　富夫

五百十二組　小林七三子

五百十三組　松田藤兵衛

五百十四組　久岡　一美

五百十五組　志賀　勉

五百十六組　今井誠太郎

五百十七組　稲谷　富夫

五百十八組　小林七三子

五百十九組　松田藤兵衛

五百二十組　久岡　一美

五百二十一組　志賀　勉

五百二十二組　今井誠太郎

五百二十三組　稲谷　富夫

五百二十四組　小林七三子

五百二十五組　松田藤兵衛

五百二十六組　久岡　一美

五百二十七組　志賀　勉

五百二十八組　今井誠太郎

五百二十九組　稲谷　富夫

五百三十組　小林七三子

五百三十一組　松田藤兵衛

五百三十二組　久岡　一美

五百三十三組　志賀　勉

五百三十四組　今井誠太郎

五百三十五組　稲谷　富夫

五百三十六組　小林七三子

五百三十七組　松田藤兵衛

五百三十八組　久岡　一美

五百三十九組　志賀　勉

五百四十組　今井誠太郎

五百四十一組　稲谷　富夫

五百四十二組　小林七三子

五百四十三組　松田藤兵衛

五百四十四組　久岡　一美

五百四十五組　志賀　勉

五百四十六組　今井誠太郎

五百四十七組　稲谷　富夫

五百四十八組　小林七三子

五百四十九組　松田藤兵衛

五百五十組　久岡　一美

五百五十一組　志賀　勉

五百五十二組　今井誠太郎

五百五十三組　稲谷　富夫

五百五十四組　小林七三子

五百五十五組　松田藤兵衛

五百五十六組　久岡　一美

五百五十七組　志賀　勉

五百五十八組　今井誠太郎

五百五十九組　稲谷　富夫

五百六十組　小林七三子

五百六十一組　松田藤兵衛

五百六十二組　久岡　一美

五百六十三組　志賀　勉

五百六十四組　今井誠太郎

五百六十五組　稲谷　富夫

五百六十六組　小林七三子

五百六十七組　松田藤兵衛

五百六十八組　久岡　一美

五百六十九組　志賀　勉

五百七十組　今井誠太郎

五百七十一組　稲谷　富夫

五百七十二組　小林七三子

五百七十三組　松田藤兵衛

五百七十四組　久岡　一美

五百七十五組　志賀　勉

五百七十六組　今井誠太郎

五百七十七組　稲谷　富夫

五百七十八組　小林七三子

五百七十九組　松田藤兵衛

五百八十組　久岡　一美

五百八十一組　志賀　勉

五百八十二組　今井誠太郎

**五百八十三組　